

幸田町長就任あいさつ

心のかよう 夢と活力のある まちを目指して

愛する幸田町を

幸せな町にするために

確かな力 誠実な力



第8代幸田町長

おおくあ いっせい
大須賀 一誠

このたびの町長選挙におきまして、幸田町政を担当させて頂いたこととなりました。身に余る光栄であり、選挙結果を謙虚に受け止め、幸田町の更なる発展に全力を傾ける所存であります。

私は、これまで町職員として、また副町長として、合わせて35年余り行政の一端を担わせていただきました。今回の選挙では、多くの町民の皆さまとお会いし、ご指導、ご鞭撻を賜るとともに、皆さまの生の声をお伺いし、改めて町政を担う者の使命と、その責任の重さを痛感しているところであります。

さて、国・県・本町を取り巻く環境は、リーマンショック・政権交代・長引く景気低迷の中、極めて厳しい状況にあることは、既にご承知のとおりであります。

こうした厳しい町財政の中ではありますが、徹底して無駄を省き、行政改革によって、町民の皆さまのご意見やご要望を町政に反映すべく、私の改革『8つの誠』の実現を目指します。なお、現在進行中の第5次

総合計画については、町政運営の大きな柱であり、その計画には沿ってまいります。計画の中間年にも当たりますので、改革を進める上で見直しすることも検討しながら進めてまいりたいと考えております。

今後、幸田町のまちづくりを進める上では、次のことを重点に取り組んでまいりたいと考えます。

● **誰もがイキイキ健康に暮らす町**
障がい者、お年寄り、また家庭内介護者のフォローを手厚く、福祉医療制度の維持、健康・福祉の充実を図ります。

● **地震・豪雨など災害に強い町**
地区ごとの防災体制を充実し、防災カメラによる全町監視システムを整備するとともに、これまで大きな被害をもたらしてきた広田川を改修し、大災害にも迅速に対応できるようにします。

● **広域行政の推進**
新たな広域行政圏域を模索しながら、

近隣の市との関係を密にし、広域行政サービスの実現を目指すとともに、持続可能なまちづくりを目指します。

● **子どもたちが未来に羽ばたく町**
学校環境を整備するとともに、いじめや不登校問題に取り組んでいきます。また、公立保育園の民営化への道を探り、幼保一元化についても検討します。自宅保育や休日保育などのサポート体制を整備しながら、安心して子育てができるよう支援をしていきます。

● **産業が活気づく豊かな都市整備**
幸田駅、三ヶ根駅、建設中の新駅の三駅を拠点としたまちづくりを進めるため、幸田駅前には市街地整備と商業活性化の一体的発展を目指します。また、新駅については、市街地開発により町北部の都市核として周辺都市機能の整備を図ります。最終的には、これらを起点に、新規産業を誘致し、産業の振興を進めます。

● **自然と共生する豊かな環境**
豊かな自然環境を維持するため、循環型社会を目指します。また、自然を守り生かすことで、快適で暮らしやすい、環境にやさしいまちづくりを目指します。

● **文化の香りただよう町**
先人から受け継いだ貴重な文化財を大切に守りながら、文化財の保護と継承を図り、新たに歴史との触れ合いを創出します。また、ハッピーネ

ス・ヒル・幸田を中心に、文化振興にも継続して力を注ぎます。

● **行政意識の向上・サービスの徹底**
健全財政を維持しながら、安定した行政サービスを継続してまいります。必要な事業は、積極的に推進し、見直すべきは見直し、時代の変化に対応する町政を実現します。

また、幸田町として、将来の安定を目指した財政運営と、世代・性別・地域の差のない、バランスのとれた行政運営を目指します。

近い将来への具体策としては、まず、厳しい財政の中、町政を持続するため、**事業仕分け**を実施します。また、住民サービスのための**総合窓口**を設置します。現在の窓口業務を見直し、利便性の高いサービスを提供できるよう、役場に総合窓口を設け、ワンストップサービスを実現し、業務の見直しを行います。

次に、**三駅のパランスのとれた整備**を行います。幸田町では、駅を拠点に、都市形成計画が進められています。それぞれの駅が、響き合いながら、物流や観光の拠点として、パランスのとれた商業地域として発展するよう、活性化と都市形成を促進します。

また、地域農業アクションプログラムの基づいた**農業の再起動**を目指し、効率的で安定した農業経営ができるよう、地元農業の活性化を図ります。

これまでの企業誘致により、産業も発展してまいりましたが、今後は、

前町長退任あいさつ



前幸田町長
とくみつ
近藤 徳光

私は、8月29日任期満了により、幸田町長を退任いたしました。3期12年間にわたり住民の皆さまから温かいご指導とご協力を賜り、お陰をもちまして大過なく今日を迎えることができましたことを心から感謝し、厚くお礼を申し上げます。

顧みれば、行政の最大の責務は住民の皆さまの生命・財産を守ることに、災害に強い安全なまちづくりを念頭に置き、住民の皆さまと共に力をあわせ一歩でも前進できるよう「共進」をモットーに、「心のかよう夢と活力のある住みよいまち幸田」の実現に向け、微力ながら幸田町の発展と

先端産業の誘致、新技術・新産業の創出などに、積極的に働きかけ、交通拠点としての地の利を生かした新産業・新規事業の誘致を推進します。やはり大切なのは町民の皆さまです。誰もがイキイキ健康に暮らす町となるよう、各種健康相談・健診など、さまざまな健康対策事業に取り組み、子宮頸がんや前立腺がんなどのがん検診の負担軽減を実現します。また、安心して子育てができるよう子育て支援も充実します。

以上、これらの誠を実現するため、国・県はもとより隣接する市町とも連携を密にしながら、町政運営を進めてまいります。

幸田町を取り巻く情勢は、厳しいものがありますが、町民の皆さまとともに、『愛する幸田町を幸せな町にするために』全力でまい進する所存でありますので、よろしくお願い申し上げます。

住民福祉の増進のため努力を傾けてまいりました。

特に平成23年度末に開業が決定したJR東海道本線新駅設置と周辺の区画整理事業につきましてはおおむね実現、また幸田駅前再開発と広田川改修・菱池遊水地につきましても、その方向付けができたことは住民の皆さまの深いご理解と力強いご支援の結果であります。



▲工事が進む新駅

【町長プロフィール】

幸田町上六栗在住
昭和23年9月生まれ、62歳
昭和50年3月 明治学院大学社会学部社会学科II部卒業
昭和50年6月 幸田町役場就職
平成15年4月 福祉部長
平成18年4月 総務部長
平成18年9月 幸田町助役（のちに副町長に改称）
平成22年8月 幸田町長初当選
趣味 クラシックカメラ収集、釣り、山歩き



▲幸田中央公園

また幸田中央公園は、文字通り幸田町の中央にあり、まちのシンボルとして多くの住民の皆さまが訪れ、自然とふれあいながら交流を深めていただいていることを大変うれしく思っております。本当にありがとうございます。

最後になりましたが、幸田町のさらなる発展と住民の皆さまのご健勝とご多幸を心から祈念し、町長退任のあいさつとさせていただきます。

副町長就任あいさつ



副町長
なるせ
成瀬 敦

9月10日（金）に開催された議会定例会で選任の同意を得て、前総務部総務防災課長の成瀬敦氏（53歳、鷺田区）が副町長に就任しました。

このたび議会において、副町長に選任をいただきました。身に余る光栄であるとともに、その重責に身の引き締まる思いであります。

より自立した自治体運営が求められる中、選任されました以上、微力ではありますが、町長を支え誠心誠意努力する覚悟であります。

幸田町におきましても、行財政は大変厳しい状況下にあり、これまでの体質に甘んじていては、町の発展は考えられません。私をはじめ職員一同が、『愛する幸田町を幸せな町にするために』改革の意識を持ち、町のために最大限の力を発揮できるような環境づくりを心掛けたいと思っています。これまでの職員経験を生かし、また、全体の奉仕者として、町政の発展に全力を傾注いたしますので、一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。就任のあいさつとさせていただきます。

問合せ 総務防災課人事秘書G

(内線3023)

住民意識調査結果報告

住民意識調査は昭和54年から実施し、今回で17回目となります。この調査は、町民の皆さんがまちづくりについてどのような考えをもっているかを把握することを目的としたものです。

18歳以上の男女1,500人を無作為抽出し、621人から回答をいただきました。

そこで、この結果から主なものを抜き出し、それに基づいた今後のまちづくりについて述べさせていただきます。

○身近な生活環境で「よい面」トップ5

順位	項目	回答率
1位	自然環境がよい	38.4%
2位	買い物に便利	14.8%
3位	治安がよい	10.2%
4位	人情味がある	8.9%
5位	子育て環境がよい	8.4%

○身近な生活環境で「悪い面」トップ5

順位	項目	回答率
1位	交通が不便	22.7%
2位	医療福祉施設が不足	19.2%
3位	まちに魅力や活気がない	13.3%
4位	買い物に不便	11.7%
5位	災害に弱い	11.3%

○町が特に力をいれてほしいことトップ5

順位	項目	回答率
1位	福祉対策	21.5%
2位	保健衛生対策	9.2%
3位	公共交通対策	8.7%
4位	交通・防犯安全対策	8.2%
5位	環境保全対策	7.2%



Q 幸田町の住み心地は??

「住みやすさを感じる」

「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」という回答が全体で初めて9割を超えました。
また、身近な生活環境でよい面は、1位が「自然環境がよい」で、2位が「買い物に便利」でした。
悪い面は、1位が「交通が不便」で、2位が「医療や福祉関連施設が不足している」でした。

【町長】 今後も住みやすいと思う人が100%に近づくように努力してまいります。

特に環境問題は住みやすい町の大前提でありますので、町民の皆さん、行政、事業所などが一体となって取り組んでまいります。

Q 町が特に力をいれてほしいことは??

「福祉対策」がトップ

前回の調査と同じく「福祉対策」が1位、「保健衛生対策」が2位となりました。

【町長】 福祉対策として障害者地域活動支援センター事業を推進します。本年度は新たに養育支援訪問事業を行い、さらに健康こつた21計画を推進し健康・福祉のまちづくりに努めます。次に安全対策として本年度新たに町民の皆さんに防災、防犯、交通安全などに関する情報をご提供するために「幸田町緊急メール配信」事業を始めました。ご家庭の安全対策にご利用ください。

幸田町ホームページには、言語検索機能が搭載されていますので、目的の情報を探しやすいです。詳しくは幸田町ホームページ <http://www.town.kota.lg.jp/> をご覧ください。

幸田町のホームページに多くの人が訪れています。

H21 年度ホームページ閲覧件数

年間 約 752,000 件
 月間 約 62,600 件
 一日 約 2,060 件



【町長】 広報紙は、町民の皆さんに町政をお知らせする大切な手段です。「町の事業計画」や「町の出来事や身近な話題」などを中心に、正しい情報を分かりやすく提供し、毎月の広報紙を楽しんでいただけるような紙面づくりを心掛けます。また幸田町のホームページにも多くの情報を掲載していきます。

Q 広報紙を読んでいますか？

78.3%が「読んでいます」

「すべて読んでいます」「主な項目（見出し）は読んでいます」という人が約8割を占めました。

○住民参加のまちづくりで参加したトップ5

順位	項目	回答率
1位	資源回収リサイクル活動	34.3%
2位	環境保全活動	13.5%
3位	スポーツ振興健康増進活動	9.7%
4位	PTA 等団体活動	8.9%
5位	交通防犯安全活動	7.6%

○住民参加のまちづくりで参加したいトップ5

順位	項目	回答率
1位	スポーツ振興健康増進活動	15.1%
2位	環境保全活動	14.8%
3位	福祉活動	14.3%
4位	交通防犯安全活動	11.1%
5位	文化歴史保全活動	9.1%

【町長】 住民参加のまちづくりはとても大切なものです。町民の皆さんが、それぞれの得意分野で積極的に活動することにより幸田町が活性化します。そして興味のある分野にチャレンジし参加していただくことにより笑顔と元気が生まれます。これからも皆さんが町政にどんどん参加していただくことを心より期待しています。

Q 住民参加のまちづくりで参加したものは？

「資源回収リサイクル活動」がトップ

Q 住民参加のまちづくりで参加したいものは？

「スポーツ振興、健康増進活動」がトップ

○環境問題に対し、今後重点的に取り組んでいくべきことトップ5

順位	項目	回答率
1位	リサイクルの推進やごみの減量化	17.1%
2位	生ごみ処理器や太陽光発電等の設置促進と費用助成	13.1%
3位	太陽熱や廃熱など未利用	12.2%
4位	環境に優しい交通の利用促進	11.8%
5位	自然環境・生態系の保全	11.3%



【町長】 町民の皆さんとともに「ごみの減量化」に取り組む、分別収集の徹底とリサイクルを進め、住宅用太陽光発電システム設置支援など循環型社会形成に取り組む、快適で美しい環境創造に努めてまいります。

Q 環境問題に対し、今後重点的に取り組んでいくべきことは何ですか。

「リサイクルの推進やごみの減量化」がトップ

今回、大きく伸びたのが「環境に優しい交通の利用促進」でした。昨年度策定しました「幸田町都市交通マスタープラン」による「人・まち・地球を大切にすると都市交通の実現」として北部地域の新駅を取り入れた20年後の都市交通体系のビジョンに町民の皆さんが共感していただいたようです。

○少子化対策として取り組んでいくべきことトップ5

順位	項目	回答率
1位	保育料、教育費の負担軽減	25.5%
2位	安心して出産育児ができる母子保健、医療の充実	17.8%
3位	保育サービスの充実	14.3%
4位	出産費用に対する補助の増額	11.5%
5位	安心して遊べる公園や遊び場の整備	9.1%

【町長】 安心して子育てができる環境づくりを目指して、妊婦健診公費負担（14回）、一般不妊治療費助成、こどもには赤ちゃん訪問、子ども医療費無料化（中3まで）を継続的に、今後も総合的に子育て支援に取り組んでまいります。

Q 少子化対策として取り組んでいくべきことは何ですか。

「保育料、教育費の負担軽減」がトップ

1位から5位までが前回と同じ順位となりました。今回、休日保育・病後児保育などの要望が少し増加しました。

○高齢者・障害者などが住みよいまちにするにはトップ5

順位	項目	回答率
1位	道路や公共の建物などの段差をなくし、身体障害者などが利用しやすいように整備・改良する	23.8%
2位	趣味や学習などの活動で気軽に利用できる施設を整備充実する	19.6%
3位	就業の場を確保する	18.9%
4位	高齢者・身体障害者などが安心して快適に暮らせるような住宅を確保する	17.4%
5位	駅舎の整備（バリアフリー化）および公共交通の拡充整備	13.0%

【町長】 高齢化が進むなか、寝たきり老人や認知症高齢者などが増加しています。不足する施設の整備を図るとともに、障害者自立支援の推進、介護予防対策の推進、日常生活用具・補装具給付を実施し、ソフト面におけるサービスの充実に努めながら、新たなニーズに対する対応も検討してまいります。

Q 高齢者・障害者などが住みよいまちにするには何ですか。

「道路・建物の段差をなくす」がトップ

今回大幅に増加したのが「就業の場を確保する」と「駅舎の整備および公共交通の拡充整備」でした。高齢者などの皆さんのニーズが移動手段の確保と生活の安定に変わってきました。

○地上デジタル放送への移行の状態

順位	項目	回答率
1位	ケーブルにて地デジ受信	53.8%
2位	アンテナにて地デジ受信	18.5%
3位	年内に地デジ受信予定	16.1%
4位	どのようにしたら良いかわからない	6.1%
5位	その他	4.5%

○災害に対する備えトップ5

順位	項目	回答率
1位	避難場所の確認	22.2%
2位	家族との連絡方法の確認	17.6%
3位	非常用持ち出し袋を用意	16.7%
4位	家具等転倒防止対策を実施	12.7%
5位	家屋等の耐震補強工事を実施	4.5%



アンケートにご協力をいただき、ありがとうございました。今回の集計結果は、町ホームページにも掲載いたします。問合せ 企画政策課情報G（内線343）

【町長】 平成23年7月24日にテレビのアナログ放送が終了します。テレビは災害情報などを入手するためになくしてはならないものです。幸田町から地デジ難民を出さないためにも残りの1割の皆さん（高齢者世帯・共同住宅世帯など）への周知に努めてまいります。

Q 地上デジタル放送への移行の状態は？
72.3%が移行済み！
年内移行予定を含めれば88.4%の皆さんが準備を済ましています。

【町長】 幸田町に多大な被害をもたらした平成20年8月末豪雨と近年全国で発生している集中豪雨災害の記憶から皆さんが身近な備えを意識され、災害に対する危機感の高さをつかがうことができました。近い将来、東海地震と東南海・南海地震の発生が危惧されており、幸田町も強化地域（東海地震）と推進地域（東南海・南海地震）に指定されています。いつ地震が発生してもおかしくない現在、いつでも行動できる心構えが大切です。町民の皆さんは、地震の被害を最小限に抑えるためにも防災意識を持ち、家庭におけることができることから準備しておきましょう。

Q 災害に対する備えは？
「避難場所の確認」がトップ
2位が「家族との連絡方法の確認」3位が「非常用持ち出し袋を用意」となり避難に関する項目が上位を占めました。

- 《貴重なご意見》（抜粋）
- 幸田駅にもっと快速が止まるようにしてください。
 - 安全な通学路を整備してください。
 - 幸田町にいる希少生物の保護をすべきです。
 - 広田川の堤防をきれいにして歩けるようにしてほしいです。
 - 高齢者のために公共交通機関の充実をしてください。
 - 総合病院が欲しいです。
 - 未婚者を減らすための出会いの提供を行政がすべきたと思います。
 - 高齢者が安心して暮らせるまちづくりを望みます。
 - 幸田町は人情味のある町で大好きです。引っ越して来て良かったです。
 - 幸田町の自然を生かした、心のふれあう町をつくってください。
 - 町民が多く利用できる町民体育館が欲しいです。
 - 幸田町の里山を守るための組織をつくるべきだと思います。
 - 幸田駅前がきれいになるのが楽しみです。
 - 警察署をつくって見回りの回数を増やしてください。

第21回 中学生海外派遣報告



8月18日から25日までの8日間の日程で、第21回幸田町中学生海外派遣団（生徒12人、引率者4人）が中国（南昌、北京、上海）を訪問しました。

南昌市第一中学校体験入学および交流会、ホームステイや社会見学などの研修を行い、日頃、学校生活では味わえない感動や貴重な体験をしました。感性豊かな中学生が、同世代の若者との交流や体験を通じて感じたこと、学んだことを報告します。

問合せ 学校教育課学校教育G（内線422）

心を通じ合わせて



幸田中学校
杉浦 有美

今回の海外派遣で私たちは南昌市第一中学校に体験入学をしてきました。そして体験入学を通して、中国と日本の学校生活の違いを学ぶことができました。南昌市第一中学校は、歴史専用、地理専用といった具合に、教科ごとに、とても大きな教室が設けられていました。そして教室の後には、いろいろな資料や大きく見やすい模型などがあり、学校での勉強がとても充実していました。

私が一番驚いたことは英語の授業です。先生の説明はもちろん、質問や意見交換もすべて英語で行われ、日本よりも英語教育が進んでいると思いました。最初は何を言っているのか理解できず、とても戸惑いました。しかし、隣の中国の子が優しく教えてくれたので、すぐに授業に参加することができました。話している言葉は分かりませんが、ジェスチャーや筆談などで会話をし、コミュニケーションを深めることができました。大切なのは言葉だけではなく、通じ合うこととする心なのだと感じました。

授業が終わったあとは、みんなでグラウンドへ行き、遊んだりたくさんのお話をしたりしました。そんな中で、中国の学生の間では日本の漫画やアニメ、音楽がとてもはやっていて、人気

があると教えてもらいました。そんな話を聞いたとき、親近感がわきとてもうれしくなりました。一緒に鶴を折ったり、長縄を跳んだりしていくうちに、心と心が通じ合い、日中の絆が深まっていくことを実感しました。

今回、この海外派遣に参加させていただき、心を通わせることの大切さを学ぶことができました。この経験を、自分の生活に生かすと共に、一人でも多くの人に伝えていきたいと思っています。



▲体験入学（英語の授業）

第21回 中学生海外派遣団

《幸田中学校》

池田将人 小久保建吾 大竹麻由
木下真希 杉浦有美

《南部中学校》

平田真司 稲吉見味 宮川奈那子

《北部中学校》

柴田真宏 成瀬兼人 岡崎安美
並川さやか

《引率者》

権田幹夫 渡邊奈緒美 藤井敦
都築孝明

「笑顔」でコミュニケーション



南部中学校
平田 真司

僕は、8月18日から25日まで海外派遣団の一員として中国に行っていました。そして、19日から21日までの3日間、南昌市の家庭でホームステイをしました。ホームステイ先では楽しいことがたくさんありました。ホストファミリーの子ども（秋から中学三年生）と英語で楽しく会話をしたり、両親に川や遊園地に連れていってもらったりしました。ドラえもんやコナンなどの日本の漫画が家に置いてあって、その話題で盛り上がりました。

しかし大変なこともありました。両親に英語があまり通じなかったので、自分が言いたいことが伝わらず、ジェスチャーを使ったり電子手帳を使ったりして悪戦苦闘しました。中国語をもう少し勉強すればよかったなと思いました。

けれど、自分はこのホームステイを通して、言葉の通じない相手とコミュニケーションをとる方法を知りました。ジェスチャーや筆談も有効です。それ以上に、うれしいときは笑顔でこたえ、感謝の気持ちを笑顔で伝えるという方法です。心が伝わる心地よさをたくさん味わいました。コミュニケーションをとる方法

は「笑顔」。万国共通だということが分かりました。

この経験を、将来生かし、たくさんの人たちと笑顔でコミュニケーションがとれるように頑張っていきたいと思います。



▲ホストファミリーと一緒に

まさに、百聞は一見に如かず



北部中学校
並川 さやか

今回の海外派遣では、北京・上海・南昌に行きました。それぞれの場所でさまざまなものを見る事ができました。

その中からスケールの大きさに驚き、私の心の中に残った二つを紹介します。

一つ目は、「天安門広場」です。とても広い場所で建物は大きく迫力が

ありました。天安門は屋根に黄色、壁に赤色が使われていて、とても華やかな建物でした。広場は中央の通路を中心に左右対称のつくりになっています。今なら機械であつたという間に出

来ることも、昔では建築にとても長い時間と労力がかかったと思います。中国の文明のレベルの高さと、人々のパワーの大きさを感じました。

二つ目は、「万里の長城」です。登りの坂や階段は段差がかなりあり、登った時はとても疲れました。しかし、長城の休憩地点からの景色は私たちの疲れを吹き飛ばすくらいに壮大で美しく、とても感動しました。

今回の中国への海外派遣で、私はたくさんのお話を学び体験しました。多くの方々に支えられて、貴重な経験ができたことに、とても感謝しています。そして、これからは周りの人に、私が学んできたことを、少しでも多く伝えていきたいと思っています。



▲天安門広場

熱烈海外派遣



団 長
権田 幹夫
(幸田中学校校長)

本年度から新たに中国への派遣ということでも復活された海外派遣団は団員全員が「もっと中国にいたい。」と目を輝かし続けた熱烈な8日間でした。

初日、上海の高層ビル群に迎え入れられ、その後、現地校でのレベルの高い授業への参加、生徒同士の交流、生徒宅へのホームステイ、文化遺産の視察など、全日程での体験は、団員に多くの驚きをもたらすと同時に今の日本や自分を客観的に見つめ直す絶好の機会となりました。

特に、「熱烈歓迎」の真っ赤な横断幕を掲げて受け入れていただいた南昌市第一中学校では、生徒同士がお互いの熱い思いを、言葉の壁を乗り越えて、笑顔で楽しく伝え合うことができ、大変うれしく感じました。団員の皆さんには、こうした貴重な体験で学んだことを各学校で多くの生徒に伝え、今後の学校生活に生かしてほしいと思うと同時に、心豊かに地域に貢献できる国際人に育ってくださることを強く願っています。